



《利用の様子①／おやつ作り》

4月10日（木）におやつ作りを行いました。今回は和風な食材の麩を使ってラスク作りに挑戦してみました。まずは溶かしたバターに麩を絡める作業ですが、麩がつぶれそうになるくらいに力強く混ぜる人もいて、職員はハラハラしながら見守っていました。次にグラニュー糖を全体にふりかける簡単な作業をしてから、ホットプレートで両面に少し焦げ目が付くまで焼いて完成となりました。バターの濃厚な香りが部屋中にあふれ、「お麩でこんなに美味しいお菓子が出来るんだね！！」と皆さん感心しながらおやつの時間に召し上がっていました。



《利用の様子②／あじさい作り》

5月の企画として、あじさい作りを行いました。あらかじめ職員が1枚の折り紙を1/4にし、丸く切っておきました。利用者様には丸く切った折り紙を折ってもらい、それぞれ好きな模様にはサミで切り込みを入れていただきました。切り込みを入れた折り紙を開いていくと、とても素敵な模様に仕上がっていて利用者の皆様も「いいねー」「上手くいったね」と声に出して喜んで下さり、出来上がったものをあじさいの形になるように模造紙へ貼り付けました。色とりどりのあじさいがデイルーム前の廊下を華やかにしてくれています。



《利用の様子③／新聞紙の貼り絵》

新聞紙を利用した貼り絵の6作品目が完成しました。今回挑戦したのは「兜」です。紙いっばいに描かれて堂々たる立派な作品になりました。新聞紙の風合いが、日本古来の「兜」にマッチしており、より重厚感を感じさせてくれています。



《看護師より／湿布について》



デイサービスを利用する方の中には湿布を使用している方が多くいらっしゃいます。かぶれなど皮膚トラブルになってしまう方もいらっしゃいます。今回は湿布について書きたいと思います。湿布というのは表皮に貼ってその下の組織に薬剤が浸透するようにしたものです。貼ってから4時間ぐらいが経過すると血中の薬剤の濃度はピークに達し、それ以降は1日以上貼ったところで効果は薄れていきます。長時間貼ってもあまり意味はなく、むしろかぶれの原因になるので長時間貼ることはお勧めできません。湿布を貼るタイミングについては血行がよくなったお風呂上がりに貼るのがお勧めです。冷湿布がいいのか？温湿布がいいのか？よく質問が有りますが、実は湿布自体には加熱効果も冷却効果もありません。違いは何かというと成分の違いです。冷湿布にはメントール、温湿布にはカプサイシンが入っており、感じ方が違うのです。どちらの湿布も鎮痛作用と抗炎症作用で同じ効果なのでどちらを使っても一緒なのです。今ではスティックタイプ、チューブタイプ、テープタイプ、においの無いタイプ、大小さまざまな湿布、効果が同じものが出ています。主治医の先生と相談し、ご自身が使ってみて使い心地の良いものを選ぶといいと思います。また、乳液やボディクリームなどを塗ってから湿布を貼ると肌と湿布との間に油膜ができ、かぶれにくくなるということです。こういった工夫もかぶれ対策としては良いかもしれませんね。

